

生活、産業、
地域を支える

石油の力SSの力

鳥取県智頭町

▶vol.567◀

燃料の安定供給で地域貢献する智頭石油(鳥取県智頭町、田中康崇社長・出光系)は、燃料油販売以外にもさまざまな事業展開に取り組み、地域の発展と持続可能な事業運営を目指していく。

E Vを中心に2013年にスタートさせたカーシェアリング事業やレンタカー事業だが、特徴的なのは特斯拉モデル3の早期段階での導入だ。車の購入はカーディーラーで販売員と対面で交渉する販売方法がすべてという時代に、ホームページからのパソコンによる注文方法や下取りや値引きもなく商品だけで勝負する特斯拉の手法の斬新さに「驚きを隠せなかっただけでなく、時代の変換期を感じた」という田中社長は「E Vと自動運転は遅かれ早かれ普及する。ユーザーと一緒に生きた教材に触れたい」との目的で特斯拉導入に踏み切った。最近では興味のある人の利用に限定されてきており稼働率も低下傾向にあるが、将来を見据えた事業として今後も継続していく方針だ。

さらに現在、注力しているのが自社

将来見据えE Vシェア、車両管理も

で独自開発した「自治体向けの車両管理システム」だ。特徴は、公用車とアルコール測定器、鍵BOX機、予約管理システムが一体となり貸出業務を自動化すること。システムを導入する事で、実際に使用した時間・乗車時間・時間帯別稼働状況などが可視化でき、公用車1台ごとの稼働率を上げ、公用車保有

事業多角化

台数の削減を図る事が見込める。実際に鳥取市役所ではこのシステムを利用することで8年前に80台程度あった公用車が現在は50台にまで減った。専任職員も減らすことができ、本来の住民サービスの業務などに就くことができるなど効率化と大きなコスト削減につながっている。ほかにも鳥取県庁、倉吉市役所、高知県庁に導入実績があるが、去年はさらに東京での自治体向けのDX展に出店してPR活動を行うなど、利用拡大に向けた活動にも積極的

に取り組んでいる。

田中社長は、こうした燃料油以外の事業にも注力していく方針で、「今後の収益の柱の一つに育てていきたい」と大きな期待を寄せている。また、本業である燃料油の販売はもちろん、車検や車販にも力を入れ利益率を高めていく考えで、「整備工場にはトヨタ生産方式を導入し業務効率の改善で無理、無駄、ムラを省いた生産性の向上に取り組んでいる。こうした取り組みを社内全体に広めることで会社全体の利益率向上や効率化を目指していきたい」と今後を見据える。

カーシェア&レンタカー

未来の電気自動車
tesla登場!!

1h
¥4000

tesla Model 3

智頭石油

tesla MODEL 3 レンタルの看板